

上海で友情を育む～東アジアの明るい未来

ミヤモト タミコ(薬祥)

(Cooking Yoga 主宰、池田町在住)

今年3月8日、9日と上海で『東アジア地球市民村 2014』が開催されました。このイベントは、東アジア地域で自然共生型社会づくりに取り組むさまざまな人やグループが、経験とノウハウを共有し、交流と協働を促進する場として今年が初めての開催でした。

今回私たちは4ヶ月のインドの旅から上海へ！…といっても偶然のご縁、インドへ出かける前にお友達になった女性、朱さんがエコイベントを上海で3月に企画しているとの事。そして今回選んだ飛行機がたまたま上海経由。それも帰りの日程がピッタリ！という神業のお陰でした。

内容についてのメールは頂いていましたが、始まるまではどんなイベントになるのか全くもって解っていませんでした(笑)。蓋を開けてみると、日本からは同志社大学の中野民夫先生をファシリテーター^①にお迎えし、「半農半X^②」の塩見直紀さん、アクト・ビヨンド・トラスト^③の星川淳さんなどなど濃いメンバー揃い！お話に有機や自然法での農場見学、ワークショップから音楽まで幅広い内容が盛りだくさんでした。今回のイベントでは、地球環境や自然環境、健康、農業についての意識が高い方が大勢参加されていました。

そのイベントの主催は、日中市民社会ネットワーク(CSネット)。日本と中国のNPOやNGO、社会起業家などのソーシャル・イノベーター^④をつなげる非営利の任意団体です。環境や高齢化社会、災害救援など、日本と中国で抱えている社会的課題には同じようなものがあります。そのような社会的課題を解決していきたい！と考えているNGO・NPOや社会起業家、研究者、活動的な市民同士でノウハウや情報を共有したり、時には手を携^{たずさ}えながら、ひとつひとつ解決していく…それがCSネットが考える「ソーシャル・イノベーション」です。



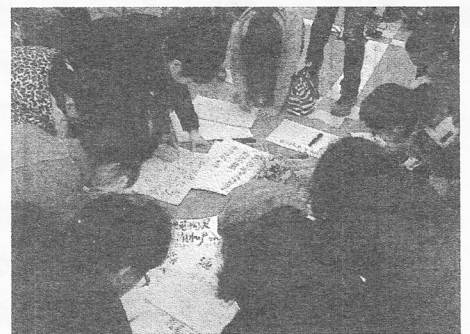
「オープニングご挨拶。
アクト・ビヨンド・トラストの星川純さん

その中心となるのは30代のうら若き？女性陣。日本の大学で修士課程をとった日本語ペラペラの秀才ばかり！その女性たちが今、最も関心のあること…それは平和と、自然共生。自然界が私たちに与える影響は計り知れないということで、一体今私たちに何ができるのだろうか…と『東アジア地球市民村』が企画されたのでした。

上海では反日感情は全く感じず、人々の優しさに触れるたび、私たちが普段テレビで垣間見ている中国とは明らかに違うものを感じました。驚いたのは、環境問題や食べ物、どうしたらこの自然を守れるのかを熱く語り、考えている人たちがこんなにたくさんいる！ということ。会場は上海郊外の古北(GUBEI)市民センター。開催当日まで、問い合わせや参加希望の電話やメールの多さに主催者もビックリ！200人も入れば一杯のホールは熱気に包まれ、有機栽培、半農半X、パーマカルチャー^⑤など基調講演が行われました。

午後には上海から車で一時間ほどの場所にある半農半X村の^{つえんぼむら}岑卜村に大型バス二台を借り切って見学に出かけました。過疎だった村が今では空き家がないほどの人気！広大な農場は村民が野菜を育てる他、市民農場としての貸し出しも行われていました。台湾から半農半Xの暮らしを求めて移住された方、アメリカ人アーティストなど、もちろん村の住人を知らない人は誰もいませんし、住人の作品展に必要なテーブルをお茶碗と箸を片手に運ぶおばちゃんがいったり…(笑)互いに助け合う暮らしが見えました。私たちが見学させていただいている間にも、空き家がないか確認に来られる方もいて、人気ぶりがうかがえました。

2日目にはワールドカフェ(幾つか出されたテーマに沿ってのグループごとの話し合い)とアジェンダメーキング(自分たちで出し合った課題についてのグループごとの話し合い)が行われ、熱気に包まれました。日中関係はもとより、食品の安全性、環境などさまざまな問題を解決する糸口が見えそうな、中国各地から参加された人たちのその情熱的な行動や発言に、驚きと明るい未来を感じました。



「アジェンダメーキング」自分が話し合いたいことを書く。みなさん、熱意に溢れて！

- ① 「促進者」という意味。会議などで中立的な立場から進行やサポートを行う調整役。
- ② 自給的な農業を生活に取り入れつつ、やりがいのある仕事と両立させる生活スタイル。
- ③ 自然環境と人間生活の調和を目指す市民やNPO・NGOの活動を支援する民間基金。
- ④ 「社会的革新者」という意味。社会問題を解決する新たな仕組みを作り出す人。
- ⑤ パーマネント(永遠の)とカルチャー(文化)・アグリカルチャー(農業)を組み合わせた造語で、「永続する農業・文化」を意味する。